

栃木県では、平成30（2018）年度からスポーツ庁の委託事業である「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を受託し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運醸成を図ることや、スポーツへの興味・関心を高めるとともに、おもてなしの心や公共心・道徳心を涵養すること等を目的として、「栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業」を実施しています。

本リーフレットは、オリンピック・パラリンピック教育の普及・充実に向けて、今年度の実践自治体である益子町、栃木市、那須塩原市、佐野市、推進校である日光明峰高等学校、高根沢高等学校の実践事例や成果等を掲載しています。



スポーツ庁委託事業 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

2019年度

栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業



◇◇◇ オリンピック・パラリンピック教育 ◇◇◇

オリンピック・パラリンピック教育とは、オリンピック・パラリンピックの理念について学ぶとともに、その価値を体験的に教えていこうとする教育的活動のことです。大別すると、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と、「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」があります。

2020年の開催に向けて、児童生徒の興味・関心を高め、スポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野をもって世界の平和に向けて貢献できる人材を育成することを目指しています。

令和2（2020）年3月
栃木県教育委員会

1 主な取組内容

◆推進校での実践◆

○パラリンピアンとの交流会及び講話

シッティングバレーボールの金田典子選手が4小学校を訪問した。

- ☆ 9月30日（月）七井小学校
- ☆ 10月1日（火）田野小学校
- ☆ 10月11日（金）益子小学校
- ☆ 10月24日（木）益子西小学校



交流会の様子

○各教科・領域等における実践例

本町は、全ての小・中学校が「東京2020教育プログラムオリンピック・パラリンピック教育実践校」の認定を受けており、各校において特色ある活動を行った。

- ☆ 社会科：様々な国の形・名称・国旗や都市の地理、歴史等について調べた。
- ☆ 図画工作科：オリンピック・パラリンピックのシンボルマークの意匠や種目等を調べ、学習したことを生かしたオリジナルのうちわを作成した。
- ☆ 体育科：オリンピック・パラリンピックの種目に取り組んだ。
- ☆ 特別の教科 道徳：「I'm POSSIBLE」の教材を用い、様々なスポーツ選手の生き方について授業を行った。
- ☆ 総合的な学習の時間：県立益子特別支援学校との交流を行った。
- ☆ 特別活動：廊下にオリパラコーナーを設け、種目紹介・ルールや観戦ポイント等を掲示した。



うちわづくり



○その他の活動

- ☆ パラリンピックスポーツ「ボッチャ」の用具を購入し、体験活動を行った。
- ☆ 校内人権週間を通して、障害のある人々への接し方等の意見交換を行い、理解を深めた。

2 成果

- ・ パラリンピックの意義や歴史、競技の種類などを学習したことで、工夫されたルールや用具など多くの魅力を発見し、パラリンピックについて興味・関心を高めることができた。事後アンケートにおいて「パラリンピックに興味がある。」と肯定的な回答をした児童の割合が増加した。
- ・ 金田典子選手との交流や講話から、夢に向かって努力することの大切さや、自分の生き方について考えを深めることができた。事後アンケートの「障害のある方や高齢者と交流したいと思う。」や「社会や人のために役に立つことをしたいと思う。」という項目においても肯定的な回答をした児童が増え、人権意識の高揚にもつながった。

3 課題

- ・ 低学年の児童に向けて、パラリンピックへの理解を促進するような具体的な活動や行事等が充分でなかった。また、具体的でより分かりやすい授業をするために資料の精選等を行うことが必要である。
- ・ 限られた授業日数・時間の中で行うことが困難であり、年間を通して、見直しをもって時間を確保することが必要である。

4 活動の様子



シッティングバレーボールにチャレンジ



パラリンピックコーナーにみんな興味津々



応援のために作成したうちわ



みんなでポッチャ体験



金田選手と楽しくおしゃべり



「I'm POSSIBLE」の教材を活用した実践



金田選手の講話



5 子供たちの声



講話を聞いて、僕もオリンピックに出たいと思いました。夢をあきらめないでがんばります。

田野小学校 4年

私はあきらめない事を教えてもらい、あきらめかけていた水泳をまた始められました。

益子小学校 5年

私はバレーボール部で身長が低いのですが、金田選手の「好きならできる」の言葉にひかれました。

益子西小学校 6年

「身体が不自由な人でも不自由ではない」という話を聞いて心がぼかぼかになりました。

七井小学校 4年

健康者も障害者も楽しめるスポーツがあることに驚き、素晴らしいと思いました。

益子西小学校 6年

健康でいられても、健康でなくなっても笑顔で前を向いて進めることが分かりました。

益子小学校 5年



ポッチャ体験を終えて
みんなで集合写真



1 主な取組内容

◆推進校での実践◆

○オリンピック・パラリンピアン等による講話や交流体験

☆ 石川 多映子 選手〔ソフトボール：シドニーオリンピック〕

9月25日（水）、10月4日（金）、11月14日（木）

- ・講話『夢の実現へ向けて～オリンピックの参加やメダル獲得の経験から～』
- ・交流体験『投げ方のコツ』

☆ 金田 典子 選手〔シッティングバレーボール：北京、ロンドンパラリンピック〕

10月15日（火）、11月27日（水）

- ・講話『パラアスリートとして子どもたちに伝えたいこと』
- ・交流体験『シッティングバレー体験』

☆ 増淵 倫巳 選手〔車いすバスケットボール：ロンドンパラリンピック〕

11月21日（木）

- ・講話『車いすバスケットボールやパラリンピック出場を通して学んだこと』
- ・交流体験『車いすバスケットボール体験』

☆ 岩淵 幸洋 選手〔パラ卓球：リオデジャネイロパラリンピック〕

12月4日（水）

- ・講話『「できない」は終わりじゃない』
- ・交流体験『岩淵選手との卓球交流体験』

☆ 永尾 嘉章 選手〔パラ陸上：ソウル、バルセロナパラリンピックなど7大会〕

12月17日（火）、12月18日（水）、12月19日（木）

- ・講話『あきらめないという事』
- ・交流体験『レーサー体験・車いすリレー大会』

○その他の取組

☆ 各教科・領域の年間指導計画への位置付けとその実践

☆ 各学校へパラリンピックスポーツ「ボッチャ」の用具貸出



金田選手の講話



増淵選手の講話



岩淵選手の講話

2 成果

- ・ トップアスリートの学校訪問などを通して、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まった。
- ・ トップアスリートとの交流を契機として、チャレンジ精神や努力を尊ぶ態度などについて学ぶことができた。
- ・ 「ボッチャ」の用具の活用が図られ、年間指導計画と関連させて様々な場面でオリンピック・パラリンピック教育を推進することができた。

3 課題

- ・ 児童生徒の興味・関心の高まりが、一過性のものとならないようにするための取組や手立ての工夫が大切である。
- ・ 「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」をこれまで以上に意識した学習ができるような働きかけをしていく必要がある。
- ・ 交流体験の事前・事後の学習を含め、児童生徒の学習のねらいを明確にした活動の実践をしていく必要がある。